

TOTO

東陶機器株式会社

Designed by Masayuki Kurokawa
KSERIES

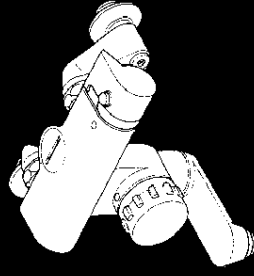
定量止水付サーモスタット混合栓

TOTO

ご愛用のしおり

■このたびは、TOTO KSERIES 定量止水付サーモスタット混合栓をお求めいただきまして、まことにありがとうございます。

このしおりをよくお読みのうえ、正しくお使いください。



もくじ

安全上の注意	1～2
特長・各部のなまえ	3
つかいかた	4～5
使用上の注意	6～8
温度調節のしかた	9
最大吐水量の調節のしかた	10～11
手入れのしかた	12
故障したときは	13
自動バルブの掃除のしかた	14

商品のお問合せはTOTOお客様相談室へ



0120-03-1010

受付時間9:00～17:30(土・日・祝日を除く)

本社 千802 北九州市小倉北区中島2-1-1……………ビル電話受付台(093)961-2111

'95.5
06526S

安全のために必ずお守りください

ご使用の前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

- この説明書では、機器を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろなお表示をしています。その表示と意味はつぎのようになっています。

⚠ 注意

この表示の欄の内容を無視して誤った取扱いをすると、傷害または、物的損害が発生する可能性があります。

- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる場所に必ず保存してください。

⚠ 注意

(1) 水栓の左側は給湯側のため高温になっています。水栓の表面に直接肌を触れないようにしてください。

やけどをするおそれがあります。

(2) 熱湯をお使いのときには、カランは高温になっています。

直接肌を触れないでください。

やけどをするおそれがあります。(カラン付)

(3) 使用後は必ず温度調節ハンドルの目盛を40°C以下に戻しておいてください。

次に使用すると、いきなり高温の湯を浴び、やけどをするおそれがあります。

(4) 高温の湯をお使いの後は、水栓内に高温の湯が残らないようしばらく水を流してください。

次に使用すると、水栓内に滞留した高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。

(5) ハンドルの温度位置を確かめた後、吐水してください。
高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。

(6) 温度調節ハンドルを急に回すと、温度が急上昇することがありますので、温度調節ハンドルはゆっくり回してください。
やけどをするおそれがあります。

(7) 凍結が予想される際は、配管の水抜操作と水栓の水抜操作を同時に行ってください。

凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。(寒冷地用)

(8) ハンドルを急閉止させると、配管から漏水を起こすおそれがありますので、ゆっくり操作してください。
漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

特長・各部のなまえ

1. 希望水量だけ吐水後、自動止水

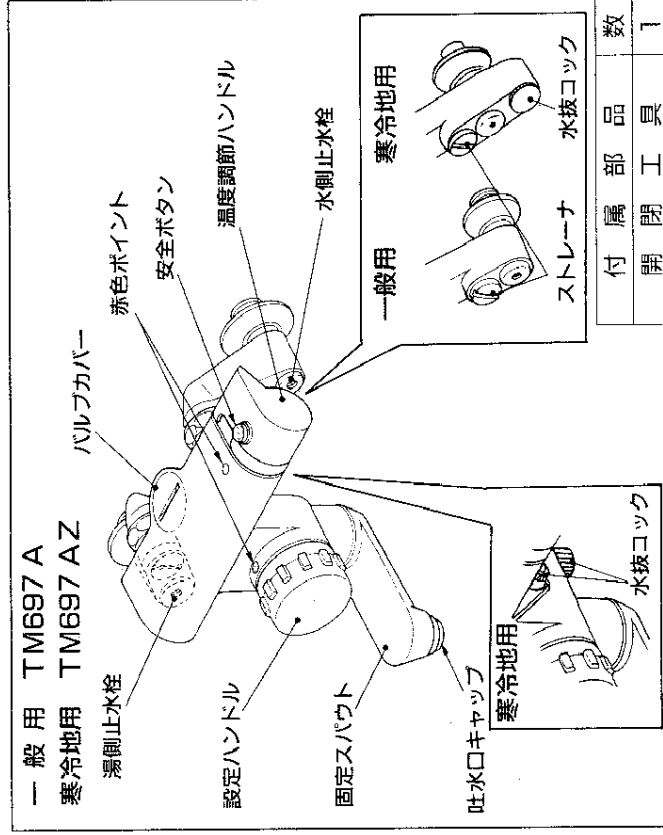
吐水量は希望の量を設定ハンドルのつまみで調整してください。吐水量は希望の量を設定ハンドルのつまみで調整してください。吐水量は希望の量を設定ハンドルのつまみで調整してください。

2. お湯の温度を自動調節

混合水の温度を一定に自動調節しますので、使用中に給水・給湯圧力が変わっても、吐水温度はほとんど変化しません。

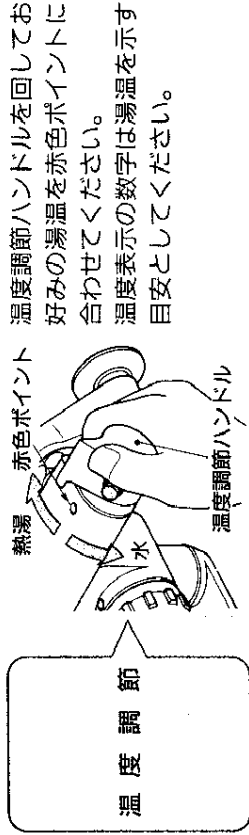
3. 操作が簡単です。

温度調節ハンドルの操作ひとつで、お好みの温度に変えられます。また、安全ボタン付ですので誤って熱湯を出すこともありません。

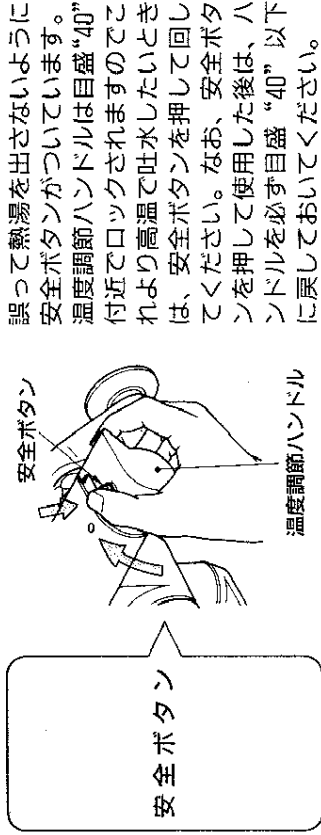


付属部品	数
開閉工具	1

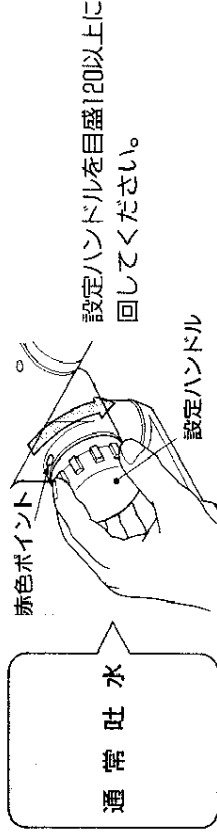
つかいかた



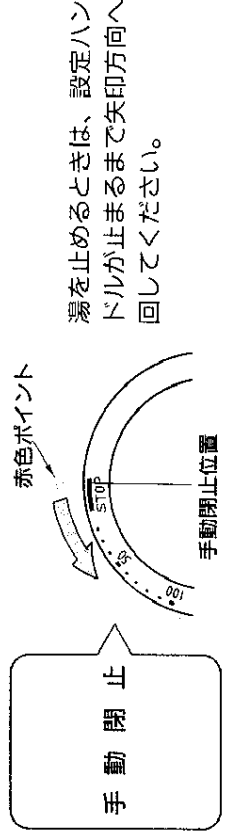
温度調節ハンドルを回して好みの湯温を赤色ポイントに合わせてください。温度表示の数字は湯温を示す目安としてください。



誤って熱湯を出さないように安全ボタンがついています。温度調節ハンドルは目盛“40”付近でロックされますのでこれより高温で吐水したいときは、安全ボタンを押して回してください。なお、安全ボタンを押して使用した後は、ハンドルを必ず目盛“40”以下に戻しておいてください。



設定ハンドルを目盛120以上に回してください。



湯を止めるときは、設定ハンドルが止まるまで矢印方向へ回してください。

使用上の注意

熱湯を使用しますので、やけどなどの事故がないよう、必ず次の注意事項を守ってください。

やけどに注意

器具の左側は熱湯で高温になるため金具の表面に直接ふれないでください。また高温で吐水させた後はしばらく水を出し、高温の残湯を流しておいてください。

温度調節ハンドルはゆっくりと

熱湯 温度調節ハンドルを急に回すと温度が上がり過ぎたり下がったり過ぎることがあります。ハンドルはゆっくり回してください。

温度調節ハンドルは“40”以下に

熱湯 (“40”以上) を使用した後、次に使用するときいきなり熱湯を浴びないため、必ず温度調節ハンドルを“40”以下に戻しておいてください。

自動吐水時

自動吐水時は設定ハンドルがゆっくりと自動回転しますので、ふるふたなどがその動きを妨げないようにしてください。(動きを妨げると湯量が多くなったり自動止水しなくなります。)

吐水量設定

設定ハンドルを矢印方向に回すとスパウトから吐水します。希望の目盛を赤色ポイントに合わせてください。
(* 120以下の目盛に設定するときは、一度120以上回してから戻して設定してください。)

自動閉止

設定湯量を吐水したのち、図に示す位置で、自動的に止水します。
(* 水をためて風呂を沸かす場合は、必ず浴槽内の水量を確かめてください。)

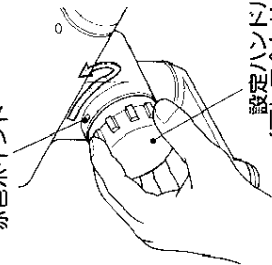
目盛の目安

ハンドルの数字がおよその湯量です。(例：150＝150ℓ)

下図は、設定位置の目安を示しますが、一度湯をためてみてお取付けの浴槽に合った湯量を確認してください。

自動閉止位置と手動閉止位置には若干のスレがあります。

赤色ポイント

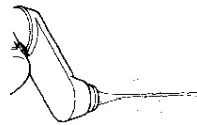


120 以下 の 設 定

湯量を120以下に設定するとき
は、必ず設定ハンドルを120以
上に回してから希望する目盛
に戻してください。
(そのまま120以下の目盛に合
わせると、自動止水しません。)

設定ハンドル
(戻して合わせる。)

吐 水 流 量

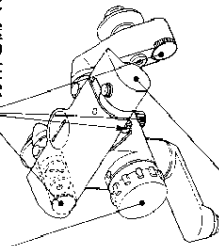


カラ側の水勢は止水栓で調
節できますが、極端に絞ると、
精度が悪くなったり自動止水
しないことがあります。目盛
150(約150ℓ)のとき、少な
くとも30分以内で止水するぐ
らいの吐水流量でご使用くだ
さい。

寒 冷 地 用 の 水 抜 の 方 法

① 設定ハンドルを目盛
120ぐらいに回す。

② 水抜コック4
カ所を開く。



③ 温度調節ハンドルをHに
合わせ、スバウトから水
が出なくなってからさら
にC側にいっぱい回す。

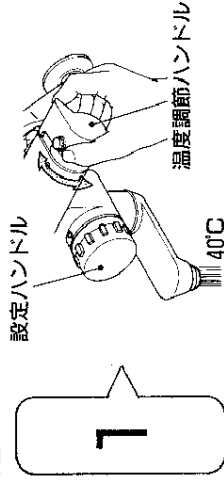
凍結のおそれがある場合は、
水抜栓の操作とあわせて左図
の番号順に操作し、器具内の
水抜きをしてください。
凍結して設定ハンドルが回ら
ない場合はゆるま湯であたた
めてから操作してください。

給 湯 機 が ガ ス 瞬 間 湯 沸 器 の 場 合

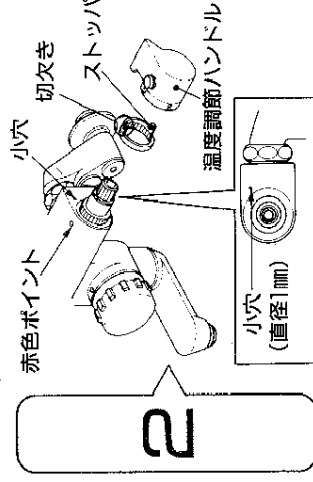
- ハンドルは全開でご使用ください。
- 湯沸器の温度調節つまみを“高”の位置にして、能力切換つまみは季節に応じた位置にセットしてください。
- 適切な吐水量で適温が得られないときは、湯沸器の能力切換つまみで調節してください。

温度調節のしかた

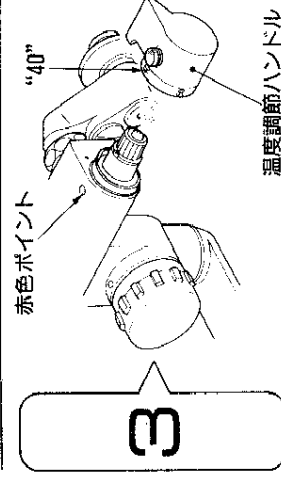
- ダイヤルどおりのお湯が出なくなったりした場合、次の要領で温度調節をしてください。
- 調節する前に次の点を確認してください。
- 止水栓が全開になっていること。
- ストレーナーのごみづまりがないこと。
- 十分な温度（使用する温度より10℃以上）のお湯がきていること。



設定ハンドルを開き、温度調節ハンドルのダイヤル目盛に関係なく40℃のお湯が出る位置まで温度調節ハンドルを回してください。



温度調節ハンドルが回らないように注意して温度調節ハンドルを引き抜いてください。温度調節ハンドルを抜きとるとき、ストッパーがはずれたら右側端面の小穴（直径1mm）に切欠きをあわせてはめてください。

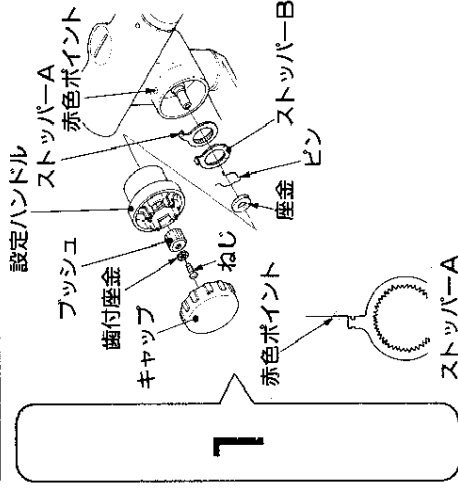


ダイヤルの“40”の文字を赤色ポイントに合わせて温度調節ハンドルをはめてください。このとき温度調節ハンドルが、本体に当たるまで確実に押し込んでください。

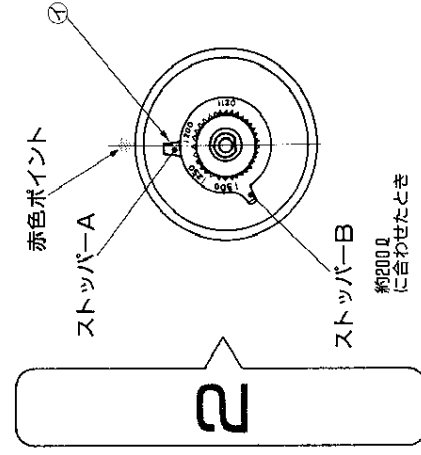
最大吐水量の調節のしかた

この器具は目盛300（約300ℓ）まで吐水量を設定できますが、浴槽の適量以上設定ハンドルが回らないように最大吐水量を調節することができます。次の要領で調節してください。

なお調節をする前に適量を調べ、設定ハンドルの目盛はおおよそ湯量（ℓ）を示しますので、浴槽に湯をためてみると適量かわかります。



設定ハンドルの“STOP”を赤色ポイントに合わせてキャップ・ねじをはずして設定ハンドルを抜きとってください。次にピンを抜いてストップバーをはずしてください。このときストップバーAは、はずさないでください。もしはずれた場合は赤色ポイントに対して図のように入れてください。

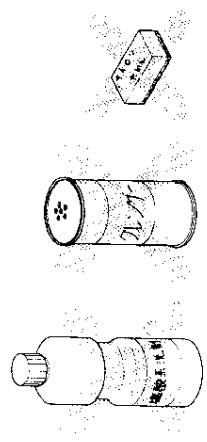


ストップバーBの数字はおおよその湯量（ℓ）を示します。数字は50単位になっていますが10単位の設定が可能です。ストップバーAの端面④と、あらかじめ調べた適量のストップバーBの数字をあわせてください。このとき120以下にセットしないでください。

手入れのしかた

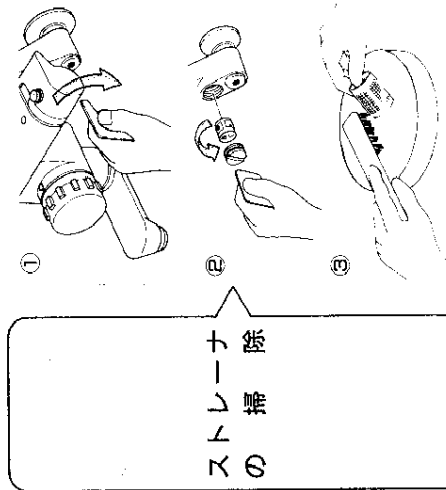
いつまでも美しさを保つためにふだんは柔らかな布でふき、めっきされたところはときどきミシン油やカーワックスなどをしみてみせて布でふいてください。ただし、樹脂部に付着すると光沢を失いますので、付着しないよう十分注意してください。

クレンザー・みがき粉などや粗い粒子を含む洗剤およびナイロンたわしなどはめっき面を傷つけますので使用しないでください。また酸性洗剤はめっきを侵しますので使用しないでください。まちがって使用したときはすぐに水洗いしてください。



カラ塗装品およびプロンズめっき品の場合は特別なお手入れ方法となりますので同梱の取扱説明書をご覧ください。

ストレーナがつまると吐水流量が少なくなったり、水又は熱湯が出なくなるなど十分な機能が発揮されなくなります。ときどきストレーナを掃除してください。



付属の開閉工具で湯側・水側の止水栓を閉じてください。

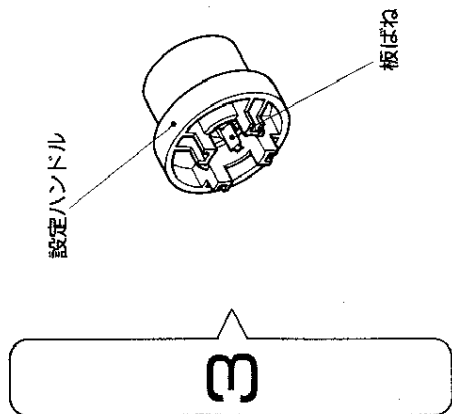
注) カラ塗装品、プロンズめっき品は表面が傷付きやすいので必ず付属の開閉工具をご使用ください。

付属の開閉工具でストレーナをゆるめて取出してください。

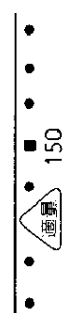
ストレーナにつまったごみをブラシなどで取除いてください。

ストッパーのセットが終わったらピンをはめ設定ハンドルを抜きとる場合と逆の手順で元の位置におさめてください。このとき座金を忘れずと設定ハンドルが回らなくなる点とがありますので注意してください。

また、設定ハンドルをおさめるとき板ばねが出てくる点があります。そのときは、ドライバーなどで押し込んでください。



左に添付している適量ラベルを設定量の目盛の上に左図のようにつけてください。貼るときは、ハンドル表面の汚れや水分をよくふきとってください。



故障したときは

故障したときの修理はお取付工事店にご依頼ください。
なおご不明な点がございましたらお客様相談室にお問合わせください。

修理を依頼される前に	
現象	お調べいただくところ
■吐水量が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ● 止水栓は全開されていますか。 ● ストレーナにごみはたまっていますか。
■高温しか出ない ■低温しか出ない	<ul style="list-style-type: none"> ● 止水栓は全開されていますか。 ● ストレーナにごみはたまっていますか。 ● 温度調節は適当ですか。
■温度目盛どおりのお湯が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ● 止水栓は全開されていますか。 ● ストレーナにごみはたまっていますか。 ● 温度調節は適当ですか。
■水がとまらない	<ul style="list-style-type: none"> ● シート部にこみをかんでいませんか。▶自動バルブの掃除参照 ● バルブの小穴がつまっていますか。▶自動バルブの掃除参照 ● ハンドル目盛が「STOP」の位置にありますか。 ● 設定ハンドルの動きを妨げていませんか。
■吐水量が大きく 狂う	<ul style="list-style-type: none"> ● 吐水量の設定はまちがいでありませんか。 ● 設定ハンドルの動きを妨げていませんか。

※点検方法は「ストレーナの掃除」、「温度調節のしかた」の項を参照ください。

自動バルブの掃除のしかた

1	水側・湯側の止水栓を閉じる。	5	シートパッキンにこみかみがないか調べる。
2	設定ハンドルが止まるまで矢印方向へ回す。	6	小穴がつまっていたら細い針金(荷札の針金など)で掃除する。
3	バルブカバーを開ける。	7	バルブ部を水洗いしたのち、元どおりおさめ、バルブカバーを閉める。
4	バルブ部を取出す。	8	水側・湯側の止水栓を開く。